

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2491300196		
法人名	株式会社 オルゴール		
事業所名	グループホーム 奏		
所在地	三重県名張市安部田2309番地		
自己評価作成日	2022年 8月 22日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=2491300196-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 4 年 9 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

創作作品の作成:年に1度秋に開催(昨年は中止今期未定)の文化祭行事への出展作の取り組みは春ごろから入所者、職員とが考えて取り組み地域交流への参加交流を持っています。
音楽療法:月に1度開催する音楽療法(音楽セラピー)は併設のデイサービスと共同開催し、好評を得ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

奈良県宇陀市を流れる宇蛇川が事業所のすぐ横を流れ、河川には大きな鯉が泳いでいる。また近くには雄大な山並みも見え、それだけで入居者の方々は「ほっと」する環境である。事業所から歩いて5分くらいの所に廃校になった小学校があり、そこでは婦人会の方々が作った食事を、「ひとり暮らしの会」の方へ提供したり、「お笑い会」「同年会」など多様な催し物が開催され、高齢化しつつある地元の原動力となっている。その原動力を事業所も共有し、また参加し地域の一員としての存在感を確立している。災害での協力体制にも繋がっている。この秋には利用者の貼り絵や手作り作品などの発表や展示が出来る「地域の文化祭」が3年ぶりに開催されるのを楽しみにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム奏の掲げる「5つの介護」の理念を職員の目の届くところに掲示し、毎日の介護従事実践できるように努めています。	法人開設時から「5つの介護」①皆様と一体となる「皆護」②懐かしい能力を目覚めさせる「懐護」③五感を刺激し快くする食事の「快護」④創作と創造を改革した作品と思いで作りの「改護」⑤出会いを大切に「会護」と掲げ、日々実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所のご家庭から野菜などもらったり、反対に事業所で栽培している野菜をお返しに持って行ったりと日常的に交流を持っています。	開設当初から地域とのつながりは密で良好である。コロナ禍の今も採りたての野菜の差し入れや、庭に咲いてる花を介しての会話、イベント時の作品作りの伝授などもあり、利用者の楽しみにも繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の所在する地区主催の文化祭(秋開催だが現在2年連続中止)にグループホーム奏として参加し、1年間の事業所内でのご利用者様の作品類の出展をして地域交流を持っています。今期3年ぶりの開催が決まった際には今まで同様参加いたします。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は原則入所者様のご家族様に参加をしていただき、日々の出来事や家族様の意見等、名張市、まちの保健室職員との話し合いの場としてサービス向上の一環に取り組んでいます。(この1年は事業所内コロナ感染、第6波・第7波の影響で開催はなし)	今までは行政は勿論、自治会の方々や家族の参加も多く、日々の報告や話し合いも活発で、色々な意見に助けられたり、貴重な時間であったが今年度は開催できていない。	今まで参加された方や協力して頂いた方に、事業所の向上の為にアンケート様式などで現状の報告から意見や考え、要望などを聞き、更なる協力体制が整うことを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービス提供、運営上の相談や意見等は「名張市福祉子ども部介護・高齢支援室」の担当職員へ連絡し利用に努めています。	生活保護の利用者も受け入れる事から、行政とは介護福祉だけではなく社会福祉についても色々勉強でき、問題が起きた時の解決方法など事業所の安心にも繋がっている。また行政からも頼りにされ密な連携が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	書面にて「身体拘束の実践の有無」を作成し、拘束の範囲や取り組み状況を見返しやすく職員に理解を促しています。	日頃の支援から「身体拘束」「虐待」などについては職員間で気を付けている。また運営推進会議で「ヒヤリハット」などから報告はしていた。今後、身体拘束委員会や職員への研修を計画中である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	労務上での職員管理は社労士等を交え話し合い、虐待に関する留意事項等は職員会議で共有し「身体拘束の実践の有無」を取り入れて虐待防止の抑制に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	半数以上の方が生活保護受給者の為、担当の市の職員が定期的に訪問し、権利擁護や自立支援についての意見交換をする機会があります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には契約内容、重要事項説明を説明させていただく際に質問や疑問に思うことを確認することで充分なご理解を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	誕生日やイベントなどの写真や作品を家族や外部者にお見せできるようにしています。家族様の意見要望は先に記した推進会議の場で伺うようにしています。	毎月の利用料の支払い時に家族との意見や要望を聞いている。今後は家族会や家族とのイベントにも力を入れたいと考えている。アンケートでも事業所への感謝の言葉が多く信頼関係も出来ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所内では管理者を中心に職員の意向を可能な限り受け入れている。また、今のところ代表者が事業所内でのことに口出しすることなく見守る立場でいる。	職員会議で話すよりも、現場で支援中の時や管理者への個人メール等の方が気付きや要望を本音で話せ、直接的で中身が濃い事が多く、チームワークも良い。内容により法人への相談も行っている。管理者は一緒に向上して行こうと計画している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働環境等は社労士と相談し法令順守にて、責任と業務内容とが釣り合えるような給与形態をはじめ勤務態度の反映、研修、資格取得の向上心を持てる環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格所得や認知症研修へ参加できやすいように勤務シフトの配慮や職員の精神ケア等に配慮し有給休暇の取りやすい職場環境づくりをしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	併設するデイサービスとの交流を通してグループホームにはない事柄など、就労しながら各サービス(介護業務)の持っているソフト面を学びサービス向上とモチベーションアップへの取り組みをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当日に初対面とならないようにサービス提供前(入所前)に本人と担当CMIに直接面会をする機会を設け話を伺うようにしている。また、事前に知り得た情報と本人(家族)の意向をもとに入所生活の支援に取り組む。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階で家族が困っている隠れた悩みや家庭環境等と言った相談ごとなど、できる限り相談できやすいように入所前の前任担当のケアマネも踏まえての関係づくりをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記(15, 16)から得た情報を基に、入所後に訪問診療医、看護師、職員、管理署の意見等情報共有をもって対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「暮らし・生活」の意識を持ってもらえるように個々で可能なことは自立してもらい排泄、更衣食事など全介護になることなく尊厳をもって援助できるサービス提供を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と会話のできやすいように通院や外食等断りなく受け入れています。※近日は事業所内感染、6波、7波の影響にて家族様が控え気味であります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ前は頻繁に自宅に帰ったり、外出することはありました。コロナ以降は19同様に友人の面会や自宅への外泊を積極的にいただいています。	今年のお盆は息子さんと一緒にモーニングやお墓参りに出かけたり、居室で家族と一緒に過ごしたり、病院受診時家族と合流したりと、充実した時間を過ごせるような関りを絶やさないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂に集まり全員での体操・歌等の時間を1日1回設けて連帯感を持てる雰囲気づくりをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	小さな町(名張)なので日常の買い物など出先にて以前のご利用されていたご家族様から気軽にお声をかけられたり退所された本人様の現況等のお話を聞くことがあります。特に同地区のご家族様からは気さくに接してくれています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活リズムにおいて束縛や干渉をしないように個人での趣味や居室での時間は自由にしてもらっています。	全職員で日々の支援中の何気ない言葉や動きから思いを把握し、介護計画に活かすように心掛けている。更に分かりやすく見やすいファイルを完成させる予定である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	併設のデイサービスにご利用の同在所の仲の良い方と共有時間を持ってもらうよう工夫することでなじみの会話や懐かしい思い出に浸ってもらうようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	訪問医、看護師、訪問歯科医の意見を基に個々の身体状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所者ごとに情報データを各カテゴリーごとに整理し、日常の介護記録書と共に介護計画の作成に取り組んでいます。	利用者担当の意見を中心に、利用者の要望や家族の意見を参考に介護計画を見直し、モニタリングを経て、充実した生活が送れるような介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	基本記録書となる「介護記録Ⅰ・Ⅱ」と、1日の状況記録を記した「申し送りノート」を活かせるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他の事業所で入所を断られた人工透析が必要な方や、成年後見人を必要とする方の入所受け入れなど、柔軟な対応でのサービス支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区対抗の運動会の参加、桜まつりの鑑賞会等コロナ前には積極的に出向いて地域資源との協働を心がけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅医療と地域医療連携の充実観点から訪問診療(往診)・訪問歯科医療との協力体制にて、可能な限りの範囲で通院時の感染リスクの回避に努めています。ワクチン接種も事業所内にて往診の際に職員も一緒に接種をしました。	今までのかかりつけ医、事業所の協力医と利用者が個々に主治医を選んでいる。全員が月1回の受診や往診を受け、歯科医も3ヶ月に1回訪問している。事業所の看護師、訪問看護師と充実した医療体制で支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所所属の看護師と訪問看護師と共通して、薬の管理や医療受信時の助言、緊急時の連絡体制をつくりサービス支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の処理として管理者の状況確認と施設看護師の支援体制をもって病院関係者からの情報を家族様と職員に連絡し、その意見を病院と相談しながら以降の関係づくりに務めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	100歳になる入所者様を事業所内で看取りをさせていただきました。その際職員看護師連携にて故人様が苦しまないように家族様も呼んでのなか看取りをいたしました。担当医からもよい評価をいただきました。	重度化や終末期には、医療関係者や家族等と綿密に話し合い方針を決めている。100歳の方の看取り時には昔ながらの見送りを利用者・職員全員で出来、感動的だった事がこれからの良い看取りへと繋がると自信に満ちた感想も聞けた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等の対応に備えに以下の情報を職員に周知しています。①管理者・看護師への連絡②訪問医への連絡③状況の記録にそなえています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員に緊急避難場所の認識と、近隣の方への声かけとご協力により事業所前の駐車場を第一避難中継場所と決め避難体制に備えています。	消防署の協力により避難訓練をしている。食材のストックはしている。今後は消防署の協力を得て、更なる詳しい訓練の仕方や備蓄の指導を得る予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者様一人一人の性格や人格を尊重した対応を心掛けています。特に身体機能能力や得意分野を見極めた対応をしています。	理念の「5つの介護」に沿って尊厳を重視している。夜勤時に居室ドアのガラス窓からのぞくのを嫌がる利用者にはタオルをかけて対応する等、一人ひとりにあった支援を心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の自己決定は否定せず趣味の時間に費やす方、自室でTVを観る方、食堂で会話する方など比較的自由にしてもらっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間や食事時間や体操の時間など決まった時以外は37に記させたとおり過ごしていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族様の了承のもと定期的(3ヶ月に1回)、訪問理容にきてもらい身だしなみ等に心がけています。また、模様替え時期には家族様に衣料等の入れ替え物をもってきてもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食は生活の基本と位置づけ、料理は手づくりにて提供しています。食材調理の匂いなど五感を刺激できるように、ホットプレート等で目の前での調理は皆様喜んでいただいています。	毎日の3食は手作り決めてる。献立もその日に決め、おやつも月2回は手作りである。イベント食や利用者の希望も聞き食事を楽しむように心掛け、とても喜ばれている。近所からの野菜などは新鮮で美味しくとても感謝している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師や看護師の助言をもとに個々の食事形態に留意し、栄養のバランスと食べやすい食事(ぎざみ食)の提供をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔体操や訪問歯科による定期口腔ケア(管理指導)により、口腔内の清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表を別途作成し、個々の排泄パターンを記載し、自立支援維持に努めています。また支援・見守りの必要な方以外は自らで排泄してもらっています。数人の入所者さまは布パンツを維持してでの生活をしていただいています。	布パンツは3名、紙パンツは4名と自立支援が活かされている。個々に排泄パターンを把握・誘導し見守っている。排便コントロールも支援し快適に過ごせるように心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対応として訪問医、看護師に個人別に相談し、食事の管理、便薬の投与時期と言った予防・対応に気を付けています。特に衛生面の観点から下痢にならないように細心の注意をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調の悪い方以外は週3回の入浴を基本とし、職員の流れ作業にならないように一人一人の入浴時間を提供しています。	月水金は女性8名、火木土は男性1名が入ると言う流れで週3回の入浴を楽しんでいる。毎回入浴剤を入れ、匂いや色など喜ばれている。職員ともゆっくり話せる貴重な時間でもある。またワセリンを塗布し肌の乾燥にも気を付けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間、消灯時間を設けておらず居室にてそれぞれの時間を好きなように過ごしてもらっています。早く就寝する方、テレビを観る方等様々で個々の就寝生活環境に配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入所者ごとに名前、用法時間を明記し、看護師の服薬管理のもと介護職員と連携して日々の変化、症状の支援に努めています。大きな変化等の場合は医師との相談にての体制をとっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今期開催の文化祭出展作品の制作は、入所者・職員とで取り組むことで、入所者の役割と楽しみ自信を持ってもらえる支援となっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	【コロナ前】春の桜ドライブ、秋の紅葉、地域の運動会、外食等…定期的に屋外でのイベント開催をしていました。 【コロナ後】事業所前を気温の高くない日に1人ずつ散歩をするくらいにしています。	コロナ禍予防を心掛け、段々と以前のような外出を企画している。一番に近所にある日常雑貨店に散歩がてら出掛け、おやつを買いに行くことを考えている。他にも地域活動が活発なので参加できるものには積極的に参加したいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、ご家族様のご了承のもと金銭等トラブルのないように事業所での金銭(貴重品)の所持はご遠慮していただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人発信の行動はないですが、年賀状や絵手紙や郵便物は時に個人宛に届くことがあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木材の素地設計でのつくりであり、照明も全体に配置設計されているため事業所内が比較的明るく見渡せます。感染対策も兼ねて換気の循環、空気清浄機の利用で居心地よく過ごせる工夫をしています。	床は木材で作られており懐かしさがある。吹き抜けもありとても明るく、フローアーは一目で見渡せ安心にも繋がっている。利用者手作りの小さな三角パーツを使った可愛い人形や鶴なども沢山飾られるなど居心地よい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	車椅子の方、話し好きな方、気の合う方等の状態や性格を配慮してのテーブル席の配置や、全員がTVの観えるような配置(レイアウト)の工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室内は完全なプライベート空間であり、居室を傷つけない限り自由な部屋づくりを提供しています。使い慣れたものや写真など自宅より持ち込んでいただいています。	ベッドはリースか持ち込みなど個人で選んでいる。それ以外は好みに合ったものでレイアウトしている。どの居室も落ち着きのんびりと出来る空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全清潔なサービス提供ができるように毎日の清掃は心がけています。廊下内に無駄な備品の配置をせずに、入所様様が安全に共同生活ができるように工夫しています。		